

MAP

各史跡の説明文

山本公園

非核平和都市宣言 (S59, 1984)

埋葬場所 grave

お墓 tomb

遺骨〔火葬にした〕 cremated remains 複数

火葬による埋葬 cremation-burial

慰霊祭、慰霊法要 memorial service

慰霊祭に参加する attend a memorial service

名簿 list of names, nominal list

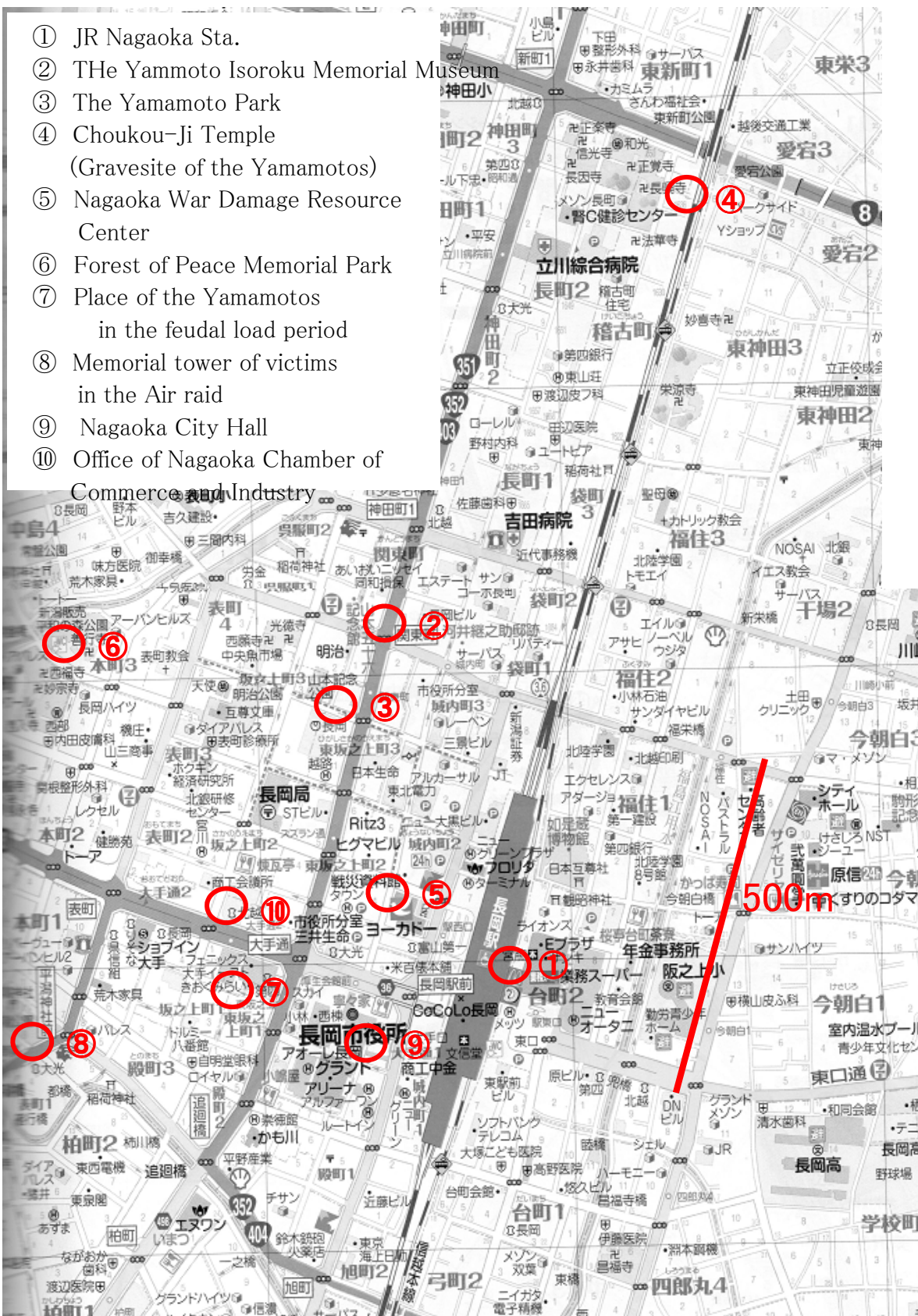
点火 kindling, firing, ignition, inflammation

灯ろう garden lantern, hanging lantern

慰霊塔 Memorial tower

模擬の mock, simulated

非核平和都市宣言 Non-nuclear Peace City Declaration



- ① JR Nagaoka Sta.
- ② The Yamamoto Isoroku Memorial Museum
- ③ The Yamamoto Park
- ④ Choukou-Ji Temple  
(Gravesite of the Yamamotos)
- ⑤ Nagaoka War Damage Resource Center
- ⑥ Forest of Peace Memorial Park
- ⑦ Place of the Yamamotos  
in the feudal load period
- ⑧ Memorial tower of victims  
in the Air raid
- ⑨ Nagaoka City Hall
- ⑩ Office of Nagaoka Chamber of  
Commerce and Industry

T-6-5\_1\_慰霊と平和への祈りの諸行事について MAP



## 長岡空襲関連史跡

- ① 模擬原子爆弾投下地点跡地の碑(左近町、永代橋付近)
- ② 柿川戦災殉難地の碑(柳原町、柳原公園)
- ③ 戦災殉難者慰霊塔(表町1、平潟公園)
- ④ 平和像(本町3、平和の森公園)
- ⑤ 長岡空襲爆撃中心点の碑(坂之上町3、明治公園)
- ⑥ 戦災殉難者之墓(四郎丸4、昌福寺)



## 長岡戦災資料館パンフより

### (1) 模擬原子爆弾投下地の碑（左近町、永代橋付近）

1945(昭和20)年7月20日午前8時13分。左近町(当時は上範村大字左近)の畑に1発の爆弾が投下されました。

4人が一瞬にして生命を失い、5人のけが人が出るとともに、全壊2戸のほか、残り29戸のすべての家が大きな損傷を受けました。

そのとき投下された爆弾は、1945年8月9日に長崎に落とされた慶子港弾(ファットマン)とほぼ同型、同重量(約5トン)の、模擬原子爆弾(パンプキン爆弾)であったことが分かりました。本番前の投下訓練として長岡が選ばれ、津上製作所を目標としていましたが、誤って左近に投下されたことも分かりました。

### (2) 柿川戦災殉難地の碑（柳原町 柳原公園）

柿川戦災殉難地の碑は、柳原町の柳原公園内(柿川の丹波f橋側)にあります。碑の高さは約1m。空襲当時、153名の人々が亡くなった神明神社の境内だったところに碑は建っています。碑には「清き柿川の辺り柳原町神明社境内で昭和二十年八月一日夜、太平洋戦争に於て此の地に空爆死された犠牲者の冥福を祈り、命日五十回忌を期に哀悼の意を捧げる(後略)」と刻まれています。

### (3) 戦災戦災殉難者慰霊塔（平潟神社）

戦災復興のまちづくりが進むにつれ、市民の間に、空襲で亡くなった人が268人と最も多かった平潟神社の境内に慰霊塔を建立しようという運動が始まりました。1958(昭和33)年3月、市議会に「慰霊塔の建設補助請願」が提出されました。そして、一般からの寄附と市及び県の補助金によって、同年11月に戦災殉難者慰霊塔が建設されました。慰霊塔には「このような不幸を再び繰り返さないよう願いをこめて」と刻まれています。その後、老朽化のため戦災50周年に当たる1995(平成7)年に修復し、現在地に移転しました。

～ 最初は境内の東南、表町交差点の方角にあったと思う。

### (4) 平和像（本町3 平和の森公園）

長岡空襲の犠牲者1,480余名の中には、280名あまりの学童が含まれていました。このいたいけな学童たちの霊を慰めるため、県教職員組合は全県下から寄附金を募り、集まったおよそ150万円をもとに像をつくった。慰霊と平和への限りない願いを込めて「平和像」と名づけられ、1951(昭和26)年11月に長岡駅前広場に設置された。

その後、この平和像は悠久山公園、明治公園と移転しましたが、1996(平成8)年市民の平和への願いのシンボルとして新しく完成した平和の森公園に安住の地を得た。

平和像の中には、銅板に刻まれた「昭和二十年八月一日長岡市戦災学徒名簿」が納められている。

公園は、灯籠流しの柿川岸にあり、公園内には、非核都市平和宣言の碑、広島から贈られたアオギリ二世の二本の木があります。

毎年八月一日の朝九時から、県教職員組合はと長岡市による慰霊式があり、多くの市民が参加します。

また、その日の夜、公園が面している柿川岸で、長岡市による平和像への灯火の点火、非核平和都市宣言市民の集い灯籠流しがあり、多くの市民が参加します。



長岡市Web

#### (5)戦災殉難者之墓（四郎丸4、昌福寺）

身寄りが分からない遺体は合同で茶毘に付されましたが、遺骨の埋葬場所はなかなか見つかりませんでした。そうしたなかで、四郎丸の昌福寺が埋葬場所の提僕を快く引き受けてくれることとなり、1945(昭和20)年9月に遺骨はようやく埋葬されました。そして、1947(昭和22)年9月には、市民の寄附により墓碑が建立されました。墓の正面には「戦災殉難者之墓」、裏面には「昭和二十年日当市戦災 殉難者 市長他千百四十名 茲に有志相図り全市民の浄財を以て永く菩提を弔う」と刻まれています。

毎年八月一日朝七時から、長岡仏教会と長岡市による慰霊法要が営まれ、多くの市民が参加します。



総務省Web

(6) 大手通りのまいまいひめ

昭和20年8月1日の夜長岡は空襲で焼野が原になり、多くの市民が犠牲になりました。

中でも被害が集中したのは、この像のある表町・本町・上田町地区でした。

そこで、2度と戦争をしないようにとの願いを込めて、「平和像」がこの場所に建てられた。

ところが昭和30年代になると、復興が進み大手通もにぎやかになりました。戦災復興都市であることを、よりアピールしようということになり、平和像は駅前に移転することになりました。

その時、今まであった場所の方では、盗られてしまうような被害者意識から、平和像の代わりを求める声が上がリ、昭和33年にこの「まいまいひめ」像が建てられたということです。

最初は、今の町口御門ビル・以前の「パンのうちやま」と、向かいの「紅屋重正」に挟まれた、変則交差点の中心にあったグリーンベルトの中に立っていました。

「まいまいひめ」は、市内の彫刻家、広井吉乃助さんの作。

## Nagaoka Information No.1 The Yamamoto Park

### (1) Location of the Yamamoto Park

The Yamamoto Park is near the Admiral Isoroku Yamamoto Memorial Museum, about five minutes' walk. A reconstructed house, where Isoroku born, and a bust statue of Admiral Yamamoto exist in the park.

The descendent of Takano family presented the land to Nagaoka city.

The Yamamoto Isoroku Honoring Association reconstructed the house of the old days, arranged the memorial park, and installed the statue in the park.

### (2) The Takanos and the Yamamotos in the feudal domain period.

The Takanos belonged to the middle-class subordinate warriors of the Nagaoka feudal domain, ruled Nagaoka area during about 260 years, and ended by the establishment of new government, winner of a large civil war about 150 years ago. The ex-Takano family land existed along the northern boundary of the Nagaoka castle.

On the other hand, the Yamamotos had become extinct by placed responsibility for the civil war, as I told you in the museum.

The Yamamotos belonged to the highest-class subordinate warriors of the Nagaoka feudal domain, as leader of politics in the domain.

So the ex-Yamamoto family land existed near the Nagaoka castle, now it is near the Nagaoka Station. Admiral Yamamoto was entrusted with the rebirth of the prestige family in his thirty years old days.

### (3) Reconstructed small house that Isoroku born, based on a memory of his family, the Takanos.

After the end of the civil war, the Yamamotos returned burnt home from a long escaping trip of more than a few hundred kilometers in the winter. And a small house had built in distress as rapidly as possible before snowy season.

There are several trees of chestnut or persimmon over there.

Planting these trees in a garden was a usual habit of samurai's house.

They were aimed to provide for food security in an emergency.

### (4) The bronze bust statue of the Admiral Yamamoto Isoroku

The original full-length figure statue was built after his death in a entrance of the Naval Airforce Base in Kasumigaura, Ibaraki near Tokyo. After the end of the war, the statue was come to Nagaoka and this bronze bust statue was molded by using bust part of the full-length figure.



